



令和4年度 決算報告

皆さんの納めた税金が、この1年間でどのように使われたのかを確かめてみましょう。

問合せ/財政課 ☎55-2725 📠51-1479

決算報告の資料は、市ウェブサイトに掲載しています。詳しくはこちら▶



改善 772億円→761億円

改善 74.0%→69.5%

悪化 88.2%→89.4%

富士市の財政状況

■経常収支比率

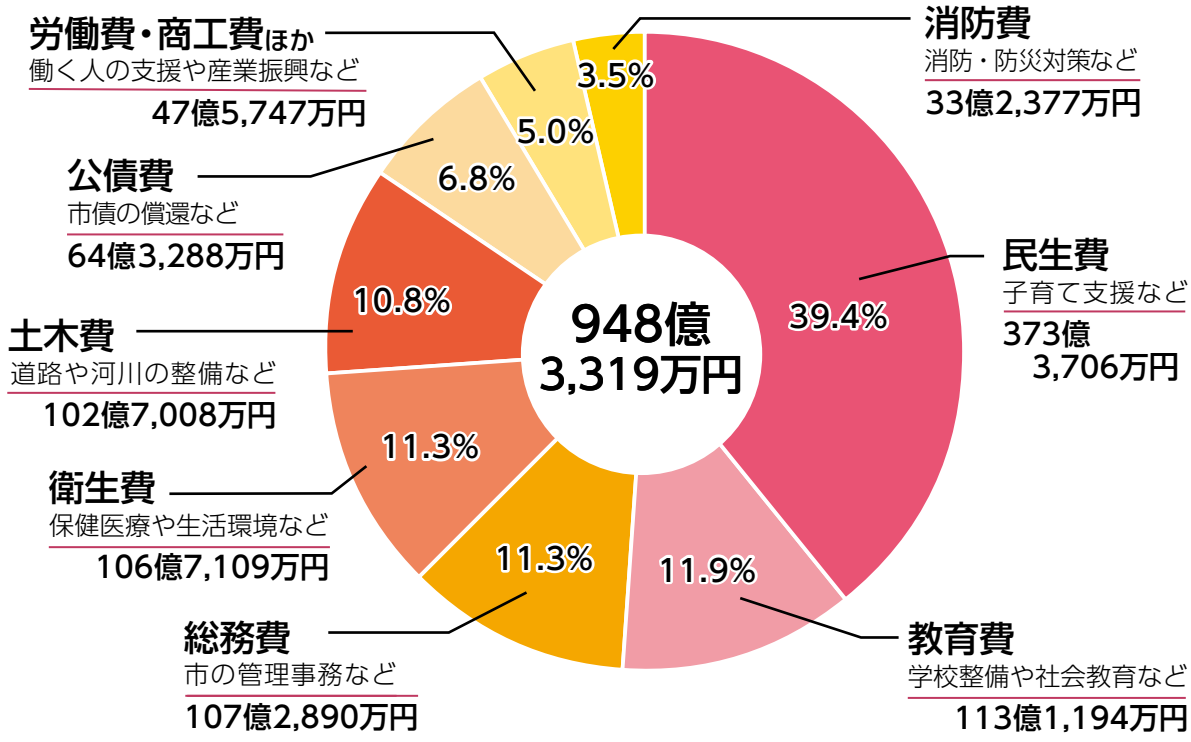
市税など毎年度収入される財源のうち、義務的経費など、毎年度支出される経費に充てられた割合。公債費等の経常経費が減少したものの、地方交付税等の経常一般財源が大幅に減少したため、比率が悪化しました。

■将来負担比率

自治体が将来支払う可能性のある負債の財政規模に対する比率。総合体育館建設事業などに係る債務負担行為(将来の支払いを約束した額)の減少により改善しました。また、早期健全化基準である350パーセントを大きく下回っており、健全な財政状況となっています。

■一般会計の市債残高

自治体の借金の残高。新規の借入額が償還額を下回ったため、市債残高が減少しました。



歳出

年度内に使ったお金

歳出を年間の市民1人当たりの金額に換算してみると… (前年度比)



※令和5年4月1日時点の人口(24万8,368人)を基に計算しています。

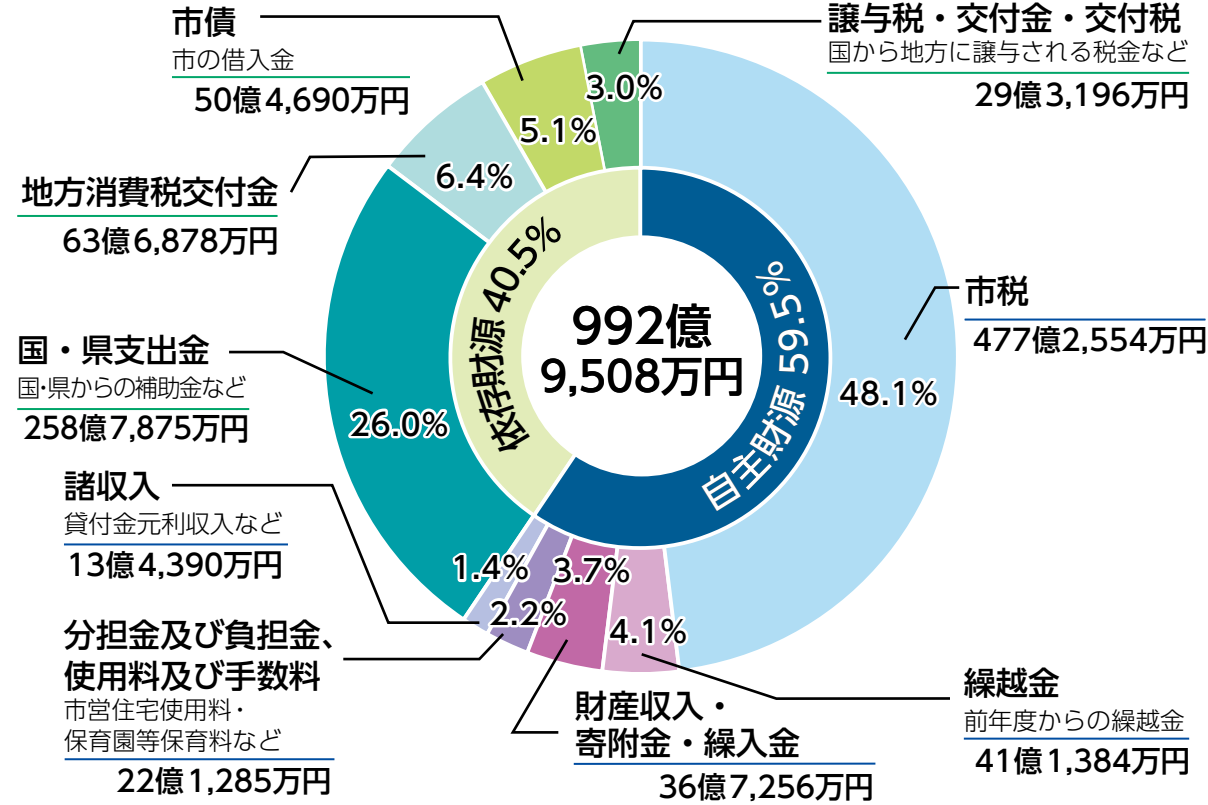
歳出は、目的別に見ると、福祉関係の費用である民生費が約40パーセントを占め、最も多くなっています。これは、国からの補助を受け、物価高騰に対する緊急支援金の給付を行ったことなどによります。次いで、教育費が11.9パーセントとなっていて、小学校ICT教育の推進、小・中学校校舎の長寿命化等を実施しました。

歳出は民生費が最多



歳入

年度内に入ったお金



市税の内訳

区分	決算額
個人市民税	152億4,911万円
法人市民税	26億5,299万円
固定資産税	232億2,742万円
軽自動車税	8億5,015万円
市たばこ税	20億2,136万円
都市計画税	37億2,451万円

歳入の約5割は市税。歳入の約50パーセントは、市民・企業の皆さんに納めていただいた市税です。令和4年度の市税の決算額は約477億円で、前年度と比較して約3億円の増収となりました。これは、経済社会活動の正常化による景気回復に伴う個人・法人市民税の増が主要な要因として挙げられます。



病院事業

事業収益合計
182億4,712万円
事業費用合計
153億43万円
純利益
29億4,669万円



公共下水道事業

事業収益合計
61億2,753万円
事業費用合計
50億3,417万円
純利益
10億9,336万円



水道事業

事業収益合計
39億1,755万円
事業費用合計
33億8,554万円
純利益
5億3,201万円



企業会計とは
法令に基づき、独立採算を原則に企業の経営で運営される会計です。

企業会計決算

歳入 538億1,872万円

歳出 530億7,320万円

特別会計区分	歳入	歳出
国民健康保険事業	240億1,270万円	239億4,456万円
後期高齢者医療事業	57億3,269万円	57億2,362万円
介護保険事業	209億2,290万円	205億4,875万円
新富士駅南地区土地区画整理事業	13億3,333万円	13億3,110万円
第二東名IC周辺地区土地区画整理事業	7億5,897万円	5億204万円
富士山フロント工業団地第2期整備事業	8億8,492万円	8億8,492万円

富士市には13の特別会計(令和4年度)がありますが、表中では駐車場事業特別会計、森林財産特別会計、財産区特別会計(5会計)を省略しています。

特別会計とは
特定の事業を行うため、一般会計と区分けして設けた会計です。事業収益や一般会計からの繰入金などが主な財源で、行政と一体となり、経営・運営を行っています。

特別会計決算